

## 2 前プランの成果指標の達成状況

### (1) 評価の目的

「はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」（以下、前プラン）では、3つの基本目標及び3つの視点に基づいた基本施策に取組み、食育の推進を図ってきました。基本目標ごとの成果指標の達成状況や、新たに取り組んできた事業を踏まえてプラン進行状況をまとめ、その課題を明らかにし、第2次プランの推進に役立てるものです。

### (2) 年度評価

前プランの実施期間は、平成24年11月から平成27年度までです。

### (3) 把握方法

市内の関係する14課を対象に、前プランの46食育施策について、調査を行うことで情報を集約し、食育推進庁内会議にて評価方法を検討してまとめました。

#### (ア) 3つの評価区分（A～C）の考え方

前プランでは、国や神奈川県の方針の成果指標を踏まえるとともに、本市の実情に合わせて独自に実施する取組みに対し、16項目の成果指標を設けて、その目標値の達成を目指してきました。成果指標の評価を、次の3つの評価区分A～C（表1）に基づき分類しました。

#### (イ) 評価分類（A～C）

A：「達成できた」⇒目標値に達しているか、目標値以上となったもの。

B：「概ね達成できた」⇒目標値の80%に至っているもの。

C：「達成には至らないが、目標に向け取組中」

⇒未達成のもので、引き続きさらに、第2次プランで取組むべきもの。

## (4) 成果

### (ア) 総括

成果指標の全項目の16項目中、AとBの達成傾向となった項目は8項目であり、Cの未達成の項目も8項目でした（表1）。計画実施期間が実質3年間と短い  
ため、引き続き、第2次プランでも取り組む必要性があります。特に基本目標1  
の指標の達成率が低いため、重点プロジェクト等を設けて、取組みを強化する必  
要があります。

着実な数値の改善がみられるものもありますが、表1の成果表を見ると、特に、基本目標1の成果指標の達成率が低い状況にあります。「楽しく食べて健康なからだをつくる～生涯食育の推進～」は、市民一人ひとりが主役です。市民の食に関する意識や関心を高め、食育を実践しやすい環境づくりや働きかけが必要です。

朝食欠食率0%を目指し、今後も引き続き重点的に取り組む必要性があります。また、その他の未達成な成果指標についても、食の大切さを根気強く普及啓発し、市民の食への関心を高めていくことが重要です。

また、その他の達成している成果指標についても、目標達成の維持に向け、さらに食育を推進する体制の維持向上を目指して、第2次プランで取り組んで行く必要があります。

【表1：成果表】

区分	結 果	成果指標 全16項目	基本目標1～3 評価の内訳		
			1	2	3
A	達成できた	5項目	2	0	3
B	概ね達成できた (目標値の80%に至っている)	3項目	0	2	1
C	達成には至らないが、目標に 向け取組中	8項目	7	1	0

(イ) 基本目標及び視点ごとの成果と課題

ア 基本目標 1.: 楽しく食べて健康なからだをつくります～生涯食育の推進～  
視点 1. からだ

【表 2：基本目標 1 の成果表】

基本施策	項目	目標値	策定時 H22	H25	H26	評価
(1) 規則正しい食習慣の向上 ★3歳6ヵ月児健康診査問診票集計 ★全国学力学習状況調査 ★市民 Web アンケート調査	①朝食欠食の割合					
	ア. 3歳児	0%	3.5%(H21)	3.5%	3.3%	C
	イ. 小学生	0%	5.1%(H21)	5.7%	5.5%	C
	ウ. 中学生	0%	9.9%(H21)	11.1%	8.6%	C
	エ. 20～30歳代男性	男性 15%以下	13.5%(H21)	最終年度評価	10.2%	A
	②栄養バランスをそろえた食事をする人の割合 (主食、主菜、副菜をそろえた食事をしている人の割合)	80.0%	72.2%	最終年度評価	63.3%	C
(2) 食を通じた健康意識の向上 ★秦野市健康診査結果 ★人口動態調査	①BMIの区分が正常な人の割合(%) 上段: 男性、下段: 女性	増加	67.9%	70.0%	70.0%*	男性:A
			69.1%	68.8%	68.8%*	女性:C
	②低出生体重児の出生割合	減少	10.4%	10.2%	10.4%	C
(3) 食品の安全性の確保 ★市民 Web アンケート調査	食品を選ぶとき、安全性を意識して購入する人の割合	90%以上	59.0%	最終年度評価	32.8%	C※

★は、目標値の出典データ \*は、平成 25 年度の数値(直近のもの)

※は、複数回答から単独回答へ、回答方法を変更したもの

【評価の理由】(表 2)

- 朝食欠食率は、20～30歳代男性の欠食率が下がり、A評価となりました。前プランの策定時と比べると、全く朝食を食べない人の割合が3.3ポイント減りました。
- 他の年代では、朝食の欠食率はほぼ横ばいであり、評価はCとなりました。
- 栄養バランスをそろえた食事をする人の割合は、8.9ポイント減少しC評価となりました。
- BMI区分が正常な人の割合は、男性が70%に増加してA評価としましたが、女性は68.8%でほぼ横ばいでした。

- ・ 低出生体重児の出生割合は、10.4%でほぼ横ばいでC評価となりました。
- ・ 食品を選ぶとき、安全性を意識して購入する人の割合は、複数回答から単独回答に回答方法を見直したためもあり、32.8%にとどまり、C評価でした。

### 【成果と課題】

20～30歳代男性の朝食を食べる人を増やすことができました。また、BMIの区分が正常な人の割合については、男性の割合を増やすことができました。しかし、その他の成果指標は達成に至りませんでした。

これらの結果から、今後も引き続き長期にわたって早寝、早起き、朝ごはん運動について取り組む必要性があります。達成できた成果指標は、目標値の見直しが必要です。

また、その他の未達成な成果指標についても、食の大切さを根気強く普及啓発し、市民の食への関心を高めていくことが重要です。

### イ 基本目標2.:食の大切さを実感し、豊かなところを育みます～共食の推進～ 視点2: ところ

【表3:基本目標2の成果表】

基本施策	項目	目標値	策定時 H22	H25	H26	評価
(1)食を通じたコミュニケーションの確保 ★全国学力学習状況調査	家の人と普段、一緒に食事をしている小・中学生の割合	80.0%	59.8%	62.8%	62.8%*	C
(2)食に関する様々な体験の充実 ★神奈川県学校給食調査	学校給食における地場産物を使用する割合	33.0%	30.6%	29.4%	31.5%	B
(3)食の伝統技術や文化の継承 ★市民Webアンケート調査	食育に関心がある人の割合	90%以上	73.5%	最終年度評価	74.7%	B

★は、目標値の出典データ \*は、平成25年度の数値(直近のもの)

### 【評価の理由】(表3)

- ・ 家の人と普段、一緒に食事をしている小・中学生の割合は、62.8%に上昇傾向で

したが、目標達成には至らず、評価をCとしました。

- 学校給食における地場産物を使用する割合は天候に恵まれて数値が上昇し、目標値の80%以上を達成していたため、B評価としました。
- 食育に関心がある人の割合は、74.7%で、目標値の80%以上を達成していたため、B評価としました。

### 【成果と課題】

家の人と普段一緒に食事をする小中学生の割合を増やすことができましたが、目標値達成には至りませんでした。学校給食における地場産物を使用する割合については、目標値には至りませんでした。生産者からの協力もあり使用割合を増やすことができました。また、食育に関心がある人の割合は、若干ですが「ある」が増加しました。

今後も、食の大切さを根気強く普及啓発し、市民の食への関心を高めていくことが重要です。

## ウ 基本目標3：自然を大切に、活力ある暮らしをみんなで作ります ～食でつなぐまちづくり～

### 視点3：暮らし

【表4：基本目標3の成果表】

基本施策	項目	目標値	策定時 H22	H25	H26	評価
(1)地産地消の 推進 ★秦野市都市農 業振興計画	観光農業など体験型農 業の実施事業数	48 事業	27 事業 (H20)	68 事業	61 事業	A
(2)食料生産に おける環境へ の配慮 ★秦野市ごみ処 理基本計画推計 値	①市民1人1日あたり のごみ排出量(資源物 を除く)	613g	671.9g	698.3g	689.0g	B
	②学校給食の残食率	5.0%	5.4%	4.2%	3.7%	A
(3)食育を担う人 材の確保・育 成・ネットワー クづくりの推進 ★食生活改善活 動実績数	食育を担うボランテ ィアの活動回数	835 回	831 回	1234 回	986 回	A

★は、目標値の出典データ

## 【評価の理由】（表4）

- 観光農業など体験型農業の実施事業数割合は、観光農業などの体験型農業の実施事業数割合は、61事業と目標値を達成していることから評価をAとしました。
- 市民1人1日あたりのごみ排出量（資源物を除く）は、策定時より17.1g増加しました。しかし、環境省発表の1人1日あたりごみ排出量（平成25年度実績）は、全国平均で807gです。本市の市民1人1日あたりのごみ排出量は、600g台を維持し続けており、全国平均と比較しB評価としました。
- 学校給食の残食率は、3.7%まで低下しており、目標値を達成していたため、A評価としました。
- 食育を担うボランティアの活動回数は減少しましたが、会員数も減少しているところ、目標値を上回っているため、A評価としました。

## 【成果と課題】

食の体験を広げるための観光農業など体験型農業の実施事業数を増加させることができました。また、市民1人1日あたりのごみ排出量は、若干重量が増えつつも、600g台を維持することができました。さらに学校給食の残食率は、目標値よりもさらに下回る3.7%に減らすことができました。食育ボランティアの活動回数は、会員数の減少にもかかわらず目標値よりも高い実績数を維持することができました。（1）、（3）の目標達成している項目については、関連する計画との目標値の整合性を図り新たな目標値の項目設定が必要です。

今後も、引き続き、市民が食に関する様々な体験を広げられるよう、推進体制の維持向上に取り組んでいく必要があります。

### 3 視点ごとの課題の整理：取り組むべき食育を3つの視点に整理しました。

#### 視点1：からだ

- ① 子どもの頃から朝食をとる習慣や、規則正しい生活習慣を身につけることが大切です。また、作って楽しい食の体験から、食事を自分で整える力の育成もあわせて必要です。
- ② 毎日の食生活は、やせや過体重、生活習慣病と密接な関係があり、健康に大きく影響します。食や健康への関心を持ち、生涯を通じて主食、主菜、副菜をそろえた食事を規則正しくとることを支援することが重要です。
- ③ 規則正しい食習慣により、むし歯を予防し、良く噛み味わいながら食べる習慣の定着を図ることが必要です。
- ④ 食品の表示や、食品衛生などの食の安全性についても理解を深め、食品を選択する力を持つことが必要です。
- ⑤ 徐々に食育への関心が高まりつつありますが、食育に関心がある人を増やし、食への関わりや体験の充実を図ることも必要です。

#### 視点2：こころ

- ① 食卓を囲み、家族や仲間と一緒に食べてコミュニケーションを図ることは、食の楽しさを実感することにつながり、豊かな人間性を育みます。  
特に子どもにとって、家族や仲間と一緒に食事をし、心を通わせるという積み重ねが心を豊かにし、成長の糧となります。あらゆる機会を通じて、共食を推進する体制整備が必要です。
- ② 料理をつくる等の様々な食に関する体験を通じて、食に関わる人々への感謝の気持ちを育む必要があります。
- ③ 受け継がれてきた家庭の味を守ることや、季節の伝統行事を知ることが大切です。  
作られてきた郷土料理や郷土愛を守るために、食に関する伝統技術や和食等の食文化を引き継いでいく必要があります。

#### 視点3：くらし

- ① 地産地消を推進し、引き続き食育を実践しやすい環境づくりを進めることが重要です。
- ② 農作物の生産においても里地里山※保全を進め、環境に配慮することが必要です。
- ③ 農産物の生産、収穫などに直接ふれあう機会をつくり、人と人との交流を広げることが必要です。
- ④ 丹沢の自然の恵みである地下水について、理解を深め、大切にすることを育むことが必要です。

(注) ※ がついた語句は、参考資料の「6 用語解説」に、五十音別に掲載しています。